

2018 年度(平成 30 年度)
事業報告書

学校法人 新島学園

目次

1 学校法人の概要	2
(1) 学園の建学の精神と教育理念	2
(2) 学校法人の沿革	2
(3) 設置する学校・学科	3
(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況	3
(5) 役員の概要	3
(6) 評議員の概要	4
(7) 教職員の概要	4
2 事業の概要	
(1) 法人本部	5
(2) 短期大学	6
(3) 中学校・高等学校	8

1 学校法人の概要

(1) 新島学園の建学の精神と教育理念

① 建学の精神

新島学園の名前は新島襄に由来し、「新島襄先生の人格をきん慕し、その遺風を顕彰しキリスト教精神を基本とする徳育を施し、品性高潔な国家社会に有用の人材を育成する」こととしている。

担う使命として、新島襄先生の教育理念に基づき「一国の良心ともいうべき人物を育てる」を掲げ、また、「一年の計には穀を植え、十年の計には木を植え、百年の計にはすべからく人材を養え」との創設者の想いを基としている。

② 教育理念

○中学校・高等学校「教育5原則」

- 1) キリスト教精神を教育の基とする
- 2) 一人ひとりの生徒を愛し、その人格を重んずる
- 3) 知識水準を高くし、勉学の喜びを教える
- 4) 勤労を尊び、天然資源の利用を学ぶ
- 5) 己を知り、国を愛し、隣人に仕え、世界を友とする心を養う

○短期大学「教育モットー」

- 1) 真理：自分の使命を探求すること
- 2) 正義：信念に基づいた行動力を持つこと
- 3) 平和：相手の価値観、感情を尊重すること

(2) 学校法人の沿革

- 1947年5月 新島学園中学校（男子校）開校
- 1948年4月 学制改革により、新島学園高等学校並びに附属中学校に移行
- 1951年3月 学校法人に組織変更し、新島学園高等学校高等学部・同中学部に名称変更
- 1968年4月 高等学部・中学部を男女共学とする
- 1971年3月 新島学園高等学校、新島学園中学校に改める
- 1983年4月 新島学園女子短期大学国際文化学科開学
- 1986年4月 新島学園法人本部設置
- 2002年4月 高等学校、中学校を併設型に改組
- 2004年4月 新島学園女子短期大学を新島学園短期大学に名称変更し、男女共学とする
国際文化学科を募集停止し、保育学科及びキャリアデザイン学科を設置
- 2006年4月 短期大学保育学科をコミュニティ子ども学科に名称変更

(3) 設置する学校・学科

設置する学校	開校年月	学科	摘要
新島学園短期大学	1983年4月	キャリアデザイン学科	2004年改組
		コミュニティ子ども学科	2004年改組
新島学園高等学校	1948年4月	普通科	
新島学園中学校	1947年5月		

(4) 学校・学科の生徒・学生数の状況

(2019年5月1日現在) (単位：人)

学校名		入学定員	収容定員数	現員	摘要
新島学園短期大学	キャリアデザイン学科	115	230	285	
	コミュニティ子ども学科	65	130	72	
新島学園高等学校		200	600	691	
新島学園中学校		200	600	567	

(5) 役員の概要

(2019年5月1日現在)

定数 理事 12人以内、監事 2人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	就任	再任	選任区分
理事長	湯浅康毅	常勤	2008年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	岩田雅明	常勤	2015年4月1日	2019年4月1日	短期大学学長
理事	古畑晶	常勤	2019年4月1日		中学校高等学校校長
理事	石井博明	常勤	2014年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	江守秀夫	非常勤	2011年4月1日	2017年4月1日	学識経験者
理事	児玉實英	非常勤	2004年9月30日	2017年4月1日	学識経験者
理事	月本昭男	非常勤	2009年9月30日	2017年4月1日	学識経験者
理事	静朋人	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	八田祥孝	非常勤	2015年4月1日	2019年4月1日	評議員選出
理事	平松譲二	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	福田朋英	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
理事	横山慶一	非常勤	2017年4月1日		学識経験者
監事	小瀧秀夫	非常勤	2019年4月1日		
監事	島津文弘	非常勤	2008年9月30日	2016年9月30日	

(6) 評議員の概要

(2019年5月1日現在)

定数 25 人以内

氏 名	選任区分	氏 名	選任区分
小林 俊 哉	法人職員	小林 士 郎	学識経験者
須 川 裕	法人職員	風 岡 優	学識経験者
鈴 木 充	保 護 者	外 所 正 明	学識経験者
本 木 毅	保 護 者	南 都 隆 道	学識経験者
櫻 井 雅 寿	保 護 者	八 田 祥 孝	学識経験者
熊 木 義 隆	卒 業 生	藤 口 光 紀	学識経験者
田 中 美 香	卒 業 生	細 谷 可 祝	学識経験者
湯 川 嘉 昭	卒 業 生	松 本 政 之	学識経験者
丸 岡 え み	卒 業 生	有 馬 平 吉	学識経験者
立 見 賢 治	卒 業 生	小 堀 良 夫	学識経験者
天 田 清之助	学識経験者	半 田 充	学識経験者
大 橋 達 久	学識経験者	三 宅 豊	学識経験者
金 子 仁	学識経験者		

(7) 教職員の概要

(2019年5月1日現在) (単位：人)

区 分		短期大学	高等学校	中学校	本 部	合 計
教 員	本 務	19	37	23	0	79
	非常勤	57	11	21	0	93
職 員	本 務	13	4	4	3	25
	兼 務	4	1	1	1	6
合 計		93	53	49	4	203

2 事業の概要

創立 70 周年記念イヤー〔3カ年〕の最終年となる 2018 年度 4 月 1 日、新たな 10 年間・次のステージに向かい、「THINK NIJIMA/THINK NEXT」の広告を掲載。

念願であった中学校高等学校第 2 グラウンド整備が竣工となったことに合わせ、4 月 27 日記念イベントとして、浦和レッズユースを招待して試合を行った。

短期大学においては、本館 3 階の改修工事を実施。アクティブラーニングを可能とするスペースや、学生が自由に利用できるフリースペース等開放的な明るい空間を設け、授業や自習等での活用に向け環境の改善を図った。

創立 70 周年を機に、10 後の新島学園を描くグラウンドデザイン 2027 (NGGD2027) を公表したことを受け、示されている将来構想の実現化方策検討のため、各部門単位での検討委員会設置を方向付け、短大に先行設置した。

法人本部

■ 伝統を守る（原点の確認）

1 活発な運営体制の構築

- ・ 当初計画にて位置付けた理事会 6 回、評議員会 3 回を計画通り開催。
- ・ 月 1 回の開催を予定した常任理事会は 14 回開催し、部門間の意思疎通を図るとともに計画的な運営に努めた。
- ・ 定例で行っている「理事・監事・評議員情報交換会」について、創立 70 周年記念事業の諸事業の終了を受け、全教職員に声掛けし、意見交換と懇親を図った。

2 盤石な財政基盤の構築

- ・ インターネットを活用した寄附制度であるファンドレイジング事業を継続して実施。

3 新島ファミリー&コミュニティとの連携

- ・ 中学校高等学校の同窓会支部である各地区根柢会（伊勢崎・東京・安中・高崎・富岡計 5 地区）の総会に役職員が出席。
- ・ 中学校高等学校同窓会、短期大学同窓会、短期大学父母の会、短期大学後援会総会についても役職員が出席し、相互理解と連携強化に努めた。

4 心身のケア及び労務管理の整備

- ・ 生徒学生の心身ケア充実について、これまでの取組みを継続して実施した。
- ・ 教職員のストレスチェックについても、3 年目に入り、順調に推移した。

5 防災・危機管理対策の充実

- 水防法の改正に伴い、水害対策の一環としてこれまで努力義務であった「避難確保計画」「計画に基づく避難訓練の実施」が義務化されたことを受け、必要な見直しを行った。

■ 伝統を活かす（新しい価値の創造）

1 学校法人新島学園 100%出資の子会社の設立検討

- 子会社設立に多くの実績を持つ民間事業者の協力を得て、「経費節減・収益事業のシミュレーション」を実施。

2 ブランド力の強化

- CIの導入を目指し、新島襄理解の深化と中高短大での共有化に向け協議。
- 理念の統一を図ること、行動理念の統一及び視覚イメージの統一を図ることと理解して、協議を重ねた。

■ ガバナンスの充実

1 事務職員の能力向上と研修の拡充

- 通常業務を行う中で、OJTを実施したほか、関連機関主催の研修会への積極的な参加を図った。

2 規程の見直し

- 現状と不整合な部分がある規程について、一部改正を実施した。法令改正に即した規程改正のため早期の情報収集を行い、対応方を協議検討。

■ 情報発信力の強化

1 総合的な広報活動体制整備

- 本部広報センター機能充実のため、ブランドディレクターを継続して配置。
- 新聞を活用し、15段広告掲載を今年度も継続して実施した。

短期大学

■ 顧客や市場の状況を理解する

- アンケートや聞き取りにより、受験生や学生、関係者等の状況やニーズの把握に努めた。受験生については、オープンキャンパス時にアンケートを実施して、参加に至るプロセスを確認した。在学生については、5月にアンケートを行い、入学に至るプロセスや学生生活の満足度について状況を把握した。また、高校教員に関しては教職員が高校訪問を行った際に聞き取りを実施した。さらに、学生の就職先企業、幼稚園等に対しては郵送によるアンケートを実施し、学生の状況の確認と、学生時代に身に付けてほしい能力に関する把握を行った。

■ 教育力、研究力、職員力の向上

- 学生アンケートで授業内容、授業手法に関する要望等を聞き、それに基づいて授業改善に努めた。また授業評価アンケートを前期、後期に行い、分かりやすさや教材の適切さなど、具体的な項目ごとの評価を実施し、それに基づいて担当教員が今後の改善計画等を策定した。
- 短大全体の研究紀要を1回、コミュニティ子ども学科独自の研究紀要を2回発行した。
- FD・SD研修会を2回開催した。1回目は職員力の向上を中心に、2回目は教職員をグループに分け、グループごとに本学の特色や課題について話し合い、今後改善が必要と思われる課題について共有した。

■ 学生生活の支援

- 学習の学習状況に関する調査を実施し、支援の必要な課題についての明確化を図った。
- 学習環境の改善を図るため、夏季休暇中に本館3階の改修工事を実施し、学習の場、交流の場を整備した。
- 学生生活の安全性を図るため、中庭や西門駐車場に外灯を増設した。また、危険性の高いブロック塀を取り壊し、安全性の高い塀を整備した。

■ 卒業後の支援体制の強化

- キャリアセンターの職員のスキルアップや就職ガイダンスの充実、県内企業等との関係強化を図るなどして、就職支援の体制、環境を整備し、両学科とも優れた就職実績をあげることができた。
- 編入指導に関しても、指導体制の充実を図り、実績としては質、量ともに過去最高の成果をあげることができた。また、編入指定校協定についても、新たに3大学と協定を締結した。

■ 将来構想の検討開始

- 短大のこれからを考える組織として、「NGGD2027短大委員会」が、理事、短大教職員を構成員として組織された。定期的に会を開催し、短大のこれまでの歩みと現状、短大を取り巻く環境等の認識を共有し、今後のあり方等について意見交換を行っている。
- 両学科の入学定員については2015年度に見直しを行っているが、現在の募集状況や今後の市場動向等を踏まえ、2020年度に向けて見直しをする方向で検討を進めている。

■ 支援組織の拡大・強化

- 後援会の充実を目指して、企業等に入会依頼を行うほか、卒業する学生の保護者に対しても入会の案内を行い、会員の増加を図った。
- 父母の会に関しても役員会を定期的で開催し、会議への参加や大学祭への参加など、短大

側との連携、交流を図った。

- 短大の支援組織である同窓会、父母の会、後援会の交流を、開学 35 周年を機に行った。各会の目的は異なっているが、短大を支援するという共通の領域において、今後さらに連携・協働を図っていく。

中学校高等学校

- キリスト教精神に基づき、他を思いやり、グローバルな視点を持った、たくましい人間の形成

1 建学の精神理解

- 新島襄研究の第一人者である本井元同志社大学教授による「新島襄の教育のこころ」の学びを継続して実施。全教職員が共有化。
- 新島襄の生き方や精神を生徒自らが考えて探求する「Joe プログラム」の充実と拡大を図る。生徒に「新島学」を教え、中学 3 年で「新島襄卒業論文」を作成。

2 グローバルな視点を持つ生徒の育成

- 海外一流大学の大学生たちを招き、夏休みを利用して 5 日間行われる英語漬けの「エンパワーメントプログラム」や各種の留学プログラム等を通して、大きな自己変革を体験。
- 白熱教室（卒業生講師）、OB 講座の充実を図った。

3 たくましい人間の形成

- 英語ディベート、スピーチ、暗唱などの大会に積極的に参加し、各種経験を重ねた。
- 小論文指導、作文コンクールへの参加などを通して自己を見つめさせた。

- 生徒募集目標達成に、全員で臨む

1 生徒募集の仕組み構築

- 生徒募集戦略会議、コンサルタントの活用により、短期／長期の募集戦略を構築。
- 生徒募集室と広報部の密接な連携のもとに活動を実施。
- 中学入試の募集活動では、熊谷、本庄、前橋、伊勢崎エリアの強化を図った。
- 高校 A O 入試の導入について検討を実施。

2 入試戦略と施策の構築

- 昨年から実施した中学入試の A O 選抜について検証。成績上位者、英検等の資格保有者、課外活動優秀者の獲得を確認。
- 高校入試では 応募者数 100 人以上を目標とし、設定を超える応募者数を得た。
- 小学校 4 年～6 年の生徒を対象に、英語教室の本格的な取り組みを継続して実施。本校の外国人英語教師と日本人英語教師がペアで対応。

- グローバル化を生き抜く人間力育成と学力向上

- 1 グローバル人材教育プログラムの見直しと充実
 - ・ 「国際教室」の授業化、「エンパワーメントプログラム」、「ボストン研修」、「オーストラリア交流校研修生」「イングリッシュキャンプ in 軽井沢」「セブ島集中語学研修」、「短期・長期留学の推奨」等を実施。
 - ・ スピーチ・ディベートコンテストの指導を強化
- 2 2020年大学入試改革に向けた取り組み
 - ・ 2020年大学入試改革に向けた、カリキュラム、シラバスの見直し。
 - ・ 指定校推薦の生徒の実力向上と一般受験生の実力向上を図り、同志社、GMARCHに加え、特に重点校として群馬大学、慶応大学、青山学院大学対策を実施。
 - ・ 難関受験コアグループ生徒を編成（学生20～30名前後）し、補修事業を実施。
- 3 理系の強化
 - ・ 科学技術振興機構「JSTプログラム」等、各種プログラムへの参加。
 - ・ 天文台の充実と活用促進。
 - ・ ICTによる理系教育の充実を図る。
 - ・ 理系に興味を持たせる取り組み「七五三太ゼミ」を継続して実施。
- 4 進路指導の充実
 - ・ 白熱教室やOB講座等により、自分自身の進路イメージを構築。
 - ・ 大学（東京大学、筑波大学、群馬大学、信州大学等）見学、美術館見学などを企画し、進路意識を高めた。
 - ・ ベネッセの、FINE、compassのシステム活用研修を実施。受験生個々のデータに基づいた進路指導、スキルの向上を目指した。
 - ・ ICTの活用として、ベネッセの「Classi」を利用し、E-ポートフォリオへの対応を図り、2020年度からの大学新テストに備えた。
- 5 教育環境、教育施設の充実
 - ・ MITが目指すプログラミング教育を中学に導入。
 - ・ SKETCHによるプログラミング教室を実施。
 - ・ 中学3年アプリコンテストで入賞。
 - ・ ラーニングコモンズの有効活用と電子黒板の有効活用を図った。
 - ・ Classiを活用し、生徒個々への対応を強化。
 - ・ 第二グラウンドの人工芝サッカー場、全天候型陸上競技場の完成を受け、授業、部活動、地域連携、生徒募集に積極的に活用。

■ 教職員の7つの能力の育成と「やりがい」の発見による力量の発揮

- 1 教職員の力量発揮の素地づくり
 - ・ 新島学園に奉職している意味の再確認
 - ・ 7つの能力の必要性認識と研修計画の実施

「指導力」「授業力」「コミュニケーション力」「イノベーション力」「計画力」
「実行力」「顧客志向思考力」

2 教職員の「やりがい」の状勢

- ・ 「自己申告」に基づく全教師面談で教師の「やりがい」を助成。
- ・ 教師の提案を奨励。

3 教職員の力量発揮のための環境整備

- ・ ラーニングコモンズの充実とアクティブラーニング用の教室の整備を実施。

4 生徒指導力と授業力の向上

- ・ 新任、若手教職員の研修計画策定と実施。
- ・ 中堅以上は、自ら適切な外部研修に参加し、自己研鑽を実施。

5 教職員の働き方改善

- ・ 教職員へのアンケートに基づき、グループ協議を通して改善策の検討実施。
- ・ ストレスチェックとカウンセリング、メンタルケアを充実。

■ 関係者、関係機関との信頼関係を高め、助言、協力、支援を学園の発展に繋げる

1 70周年記念事業アフターイヤー対応

- ・ 5月2日、開校記念講演会開催。(元同志社大学本井教授)
- ・ 群馬近代美術館「湯浅一郎展」とのコラボレーションコンサート開催。
- ・ クリスマスコンサート他、各種イベントの実施。

2 PTA・同窓会・関連機関・地域社会との連携強化

- ・ 安中市及び近隣との協力関係を強化。
- ・ 保護者、同窓会との情報交換、相互理解の充実と支援の確保に努めた。

■ 安心・安全な教育環境の整備

1 安心・安全な教育環境の整備

- ・ 「いじめ」「行き過ぎた生徒指導」等に対する感度を高め、適切な対応を事前に実施できる環境づくりに努めた。
- ・ 「スマホの安全な使い方教室」等を保護者と連携して実施。
- ・ リスク管理規程に則り。災害対応訓練を実施。
- ・ 特別支援生徒への対応力強化と丁寧な進路指導を実施。